

フリードリヒ・エーベルハルト・  
フォン・ロヒョーの生涯、思想お  
よび業績について (その3)

田 中 昭 徳

ロヒョー著作目録 (Ⅲ)

※ [全集] は、F. ヨーナス、F. ヴィーネッケ編『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー教育学全集』4巻本 (*Friedrich Eberhard von Rochows sämtliche pädagogische Schriften*, herausgegeben von F. Jonas und F. Wienecke, 4 Bände, Berlin, 1907-1910) を示す。

1802年

(125) 論文「各国民はその偉大さやその国威発揚の端緒を何か或る戦勝にまったく負うていないであろうか？」 (*Sollte nicht überall jede Nation den Anfang ihrer Größe und Staatswichtigkeit irgend einem Siege verdanken?*) 署名 (85頁) 1802年12月12日、ベルリンにて、レカーンの領主フォン・ロヒョー。J. E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』 (*Neue Berlinische Monatsschrift*. Herausgegeben von J. E. Biester) 第1巻 (1803年1-6月)、ベルリン 1803年刊、83-86頁所収\*。[全集第3巻、455-456頁収録。]

※ E. シェファー著『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー』 (*Ernst Schäfer, Friedrich Eberhard von Rochow, Ein Bild seines Lebens und Wirkens*. Gütersloh 1906) 所収の「ロヒョー著作目録」では、「83-96頁所収」となっている (同上書、94頁 No. 85)。

(126) 論文「召喚——フェールベリン付近\*に戦勝記念碑を建立するために或いは起こるべき要求について」(*Zitation. Über etwaige Forderungen für die Herstellung des Denkmals bei Fehrbellin*)。署名 1802年11月27日, ベルリンにて, レカーンの領主フォン・ロヒョー。J. E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』第9巻, 1803年2月号, 88頁所収。

※ ブランデンブルク選挙侯フリードリヒ・ヴィルヘルム (Fredrich Wilhelm, 在位1640-1688) は, 1672年, ネーデルラント戦争が起こった際, ドイツ皇帝と同盟してフランス軍と戦った。ルイ十四世はスウェーデンを動かしてブランデンブルクと戦端を開かせたが, フリードリヒ・ヴィルヘルムは1675年6月18日, スウェーデン軍をフェールベリンにおいて大いに破り, プロイセン興隆の基を築いた。

## 1803年

(127) 「フェールベリン近郊にロヒョーによって建立された戦勝記念碑の碑文」(*Inschrift des von Rochow gestifteten Denkmals bei Fehrbellin*)。E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』第9巻, 1803年2月号, 89-90頁所収。

(128) 論文「立派な管理者として称讃されるに値いするのは誰か?」(*Wer verdient das Lob eines guten Verwalter?*)。署名 レカーンの領主フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』(*Gemeinnütziges Volksblatt, herausgegeben von der Königlichen Märkischen Oekonomischen Gesellschaft in Potsdam*), 第6年次分, ポツダム 1803年刊, 11-16頁所収, または同協会編集『新公益通俗雑誌』(*Neues gemeinnütziges Volksblatt, herausgegeben von der Königlichen Märkische Oekonomischen Gesellschaft in Potsdam*), 第1年次分, 11-16頁所収。

(129) 論文「立派な管理者という称讃」(*Lob eines guten Verwalters*)\*。

署名 レカーンの領主フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』, 第6年次分, 49-54頁\*\*\*所収, または同協会編集『新公益通俗雑誌』, 第1年次分, 49-54頁\*\*\*所収。

※ E. シェファー著「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」所収の「ロヒョー著作目録」によれば, この論文は前記論文(129)の完結篇(Schluss)である。(同上書, 90頁 No. 55<sup>2</sup>を参照。)

※※ E. シェファー著「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」所収の「ロヒョー著作目録」による(同上書, 90頁, No. 55<sup>2</sup>)。「全集」第3巻所収の「ロヒョー著作目録」では, 11-16頁所収となっている。(同上書, 500頁, No. 129を参照。)

## 1804年

(130) 論文「わたし自身の思索にたいする課題, またはわたしの方法を研究すること」(*Aufgabe für mein eigenes Nachdenken, oder meine Art zu studieren*)。署名 Alethophilus (索引ならびに編集者の注によれば, 執筆者はフリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーである。)  
J. E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』第11巻, ベルリン 1804年刊, 42-52頁所収。〔全集第3巻, 196-201頁収録。〕

(131) 論文「教導, その価値およびそれに基づくべき教師の評価について」(*Über Lehre, deren Wert und darauf zu gründende Wertschätzung des Lehrers*)。署名 3月20日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。H. G. ツェーレンナー編集『新ドイツ学校の友——市民学校および農村学校教師のための手引書を兼ねた有益な読み物』(*Der Neue deutsche Schulfreund. Ein nützliches Hand- und Lesebuch für Lehrer in Bürger- und Landschulen. Herausgegeben von G. H. Zerrenner*)。第7集, ベルリンおよびシュテッティン 1804年, 1-13頁所収。〔全集第3巻, 202-209頁収録。〕

- (131) 論文「理性と悟性と〔の区別〕に関する第二抗弁」(*Duplik über Vernunft und Verstand*)。署名 1804年4月29日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。J. E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』, 第11巻, ベルリン 1804年, 441-448頁。〔全集第3巻, 210-214頁収録。〕

### ロヒョー著作集, 全集および書簡集

- (1) I. ガンゼン編『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー教育学著作集』(*Friedrich Eberhard von Rochows Ausgewählte pädagogische Schriften. Mit einer Einleitung herausgegeben von I. Gansen*)。パデルボルン 1894年刊。

内容 ( )内の数字は上記ロヒョー著作目録番号を示す。以下同じ。

- I. 1. 子どもの友抄(12のcおよび18のa)および子どもの友付録(K. F. リーマン著「レカーン学校制度の試論的記述」第3版, ベルリンおよびシュテッティン1781年刊, 290頁以下および301頁以下の再録)。2. わたしの学校の歴史(66)。3. 啓蒙を望み, かつこれを必要とする教師のための問答形式の手引書(80)。4. 健全なる理性の問答(80)。5. 農村学校教師にたいする訓令(66の付録c)。6. レカーン学校の教師たちにあてた手紙(13)。7. 教育罰について(48)。II. 農村の子どものための, あるいは村落学校で使用されるべき教科書試案(4のb)。

- b. 同一書名。第2版。パデルボルン 1908年。総頁数 415頁。

内容 V-VI頁 第2版への序文(Dr. Kahl)。3-38頁 緒論(フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー)。38-39頁 緒論への補遺(Dr. Kahl)。41-407頁 本文: 第I部 1. わたしの学校の歴史(66)。2. 民衆学校によって国民性を(17)。3. 啓蒙を望み, かつこれを必要とする教師のための問答形式の手引書(80)。4. 健全なる理性の問答(80)。5. 農村学校教師にたいする訓令(66の付録c)。6. レカーン学校の教師たちに宛てた手紙(13)。7. 教育罰について(48)。8. 1776年5月13, 14, 15日の3日間にわたってデッソウの汎愛学舎で行なわれた公開授業についての詳細な報告(14)。9. 子どもの友抄(12のcおよび18のa)。10. 子どもの友付録(K. F. リーマン著「レカーン学校制度の試論的規述」第3版, ベルリンおよびシュテッティン1781年刊, 290頁以下および301頁以下の再録。) 第II部 農村の子どものための,

あるいは村落学校で使用されるべき教科書試案 (4のb)。408-409頁目次。

[所在 東北大学付属図書館。]

(2) シュッツェ編『E. v. ロヒョー教育学著作集』 (*E. v. Rochows pädagogische Schriften*, herseg. von Schütze)。ブレスラウ 1902年刊。総頁数48頁。

(3) F. ヨーナス, F. ヴィーネッケ編『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー教育学全集』4巻本 (*Friedrich Eberhard von Rochow's sämtliche pädagogische Schriften*, herausgegeben von Fritz Jonas und Friedrich Wienecke, 4 Bände)。ベルリン 1907-1910年刊。

内容 第1巻 (1907年刊) II頁 ロヒョー肖像画。VII頁 目次。IX-XV頁 序言 (Fritz Jonas)。1-359頁 本文: 1. 農民の子どものための, あるいは村落学校で使用されるべき教科書試案(4)。2. 青少年の教授における新旧教授法の比較(6)。3. 人間の重要な要件について思惟させるための教材(7)。4. 子どもの友第1部(12)。5. 子どもの友第2部(18)。6. 民衆学校によって国民性を(17)。7. カルル・フリードリヒ・リーマン著「レカーン学校制度の試論的記述」への序文(21)。8. 「子どもの友」自評(22)。第2巻 (1908年刊) V頁 目次。1-396頁 本文。1. 啓蒙を望み, かつこれを必要とする教師のための問答形式の手引書(28)。2. 教育に関する若干の提案(28)。3. 健全なる理性の問答(30)。4. ハルパーシュタットにおける聖堂参事会付属農村学校教師養成所の有効な設置に関する大聖堂参事会規程(34)。5. 単純について(40)。6. 小論理学(38)。7. 翻訳「ミラボー兄国民教育に関する談話」(44)。8. 学校教師がいつも快活または上ぎげんであることの大きな価値について(46)。9. カルル・フリードリヒ・リーマン著「レカーン学校の新記述」への序文(48)。10. 是正第1試論(45)。11. 是正第2試論(59)。第3巻 (1909年刊) III頁 目次。1-214頁 本文。1. 試みということについての試論(61)。2. わたしの学校の歴史(66)。3. 五官について(69)。4. 救貧院を顧慮して都市下級学校および農村学校をもっと有効に組織すべき必要性について(71)。5. 摘要(73)。6. 摘要への補遺(74)。7. 大学教授ヤコーブ氏著「経験心理学綱要」における理性と悟性について(75)。8. 幸福主義ならびにカント学説の利用についての私見(80)。9. 人は或る事物について何を考えることができるかということについて(84)。10. 市民学校および産業学校における初歩教授のための教材(85)。11. 青少年用教科書における幸福主義について(85)。12. カント学説はどこで, どういう

仕方で幸福主義説に与しているか? (96) 13. 農村学校の改善に関してさらに一言する (103)。14. 教育と学校 (108)。15. 形成することと変革すること (109)。16. 年少児童の授業においてルター教理問答書を早くから使用することについて(110)。17. 宗派・信心(115)。18. 全般的学校計画の試み(116)。19. 抜本的な学校改革について(123)。20. わたし自身の思索にたいする課題(130)。21. 教導, その価値およびそれに基づくべき教師の評価について (131)。22. 理性と悟性と〔の区別〕に関する第二抗弁 (132)。217-456頁 付録Ⅰ: 1. 農民の子どものための教科書試案改訂第3版 (4のb)。2. 子どもの友——別名, 読み方初歩教授, 改訂最新版・正版・廉価版 (18のk)。3. ジルヴィウス——別名, 10歌章よりなる狩猟詩の試み (1)。4. 共有地の廃止に関して農民に寄せる一農場主の書簡(3)。5. ベルリン学士院によって提起された1783年度懸賞問題「種々の誤謬や迷信に捉われている未開ならびに文明国民に健全な理性を取り戻させるには何が最善の方法か?」について論ずる(27)。6. 統治の外貌について(88)。7. 粗野な国民を淳化するには, どのようにして着手するか? (93) 8. 刑務所に収監されている囚人の更生に関する提案(102)。9. 農業における算術の不可欠性(121)。10. 過去の教訓(119)。11. 各国民はその偉大さやその国威発揚の端緒を何か或る戦勝にまったく負うていないであろうか? (125) 457-529頁 付録Ⅱ: 1. フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの協力者および生徒についての報告。2. フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー著作目録。3. フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー著『子どもの友』の翻刻, 翻訳および翻案目録。4. フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの人物, 活動, 学校, 意義, 業績にたいする諸家の評価。5. フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの生涯, 活動, 業績に関する文献目録〔ただし, 1806年まで〕。6. フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの肖像画目録。第4巻 (1910年刊) III頁 目次。IV-X頁 序文 (Fritz Jonas)。1. 1-383頁 書簡 (304通)。2. 384-385頁収録書簡索引。3. 386-436 フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー伝記。4. 437-463頁 レカーン学校参観者名簿。5. 全集収録著作のアルファベット順索引。6. 467-473頁 人名索引。6. 447頁 正誤表。

〔所在, 京都大学教育学部図書室, 広島大学教育学部図書室, 田中。〕

- (4) E. シェファー編『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー』(Friedrich Eberhard von Rochow. herausgegeben von E. Schäfer, Greßlers Klassiker der Pädagogik, Bd. XXVII.)。ランゲンザルザ 1910年刊。

- (5) R.ロヒナー編『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの民衆学校に関する著作』(*Schriften zur Volksschule von Friedrich Eberhard von Rochow. herausgegeben von Rudolf Lochner, Klinkhardts Pädagogische Quellentexte*)。パート・ハイルブルン 1962年刊。総頁数64頁。

内容 4頁 目次。5-55頁 本文: 1. 民衆学校によって国民性を(17)。2. 教育に関する若干の提案(28)。3. ハルパーシュタットにおける大聖堂参事会付属農村学校教師養成所の有効な設置に関する大聖堂参事会規程(34)。4. 救貧院を顧慮して都市下級学校および農村学校をもっと有効に組織すべき必要性について(71)。5. わたしの学校の歴史(66)。6. 国務大臣フォン・ツェートリッツに宛てたロヒョーの手紙2通。7. 編者注。8. 編者あとがき。9. 文献。

〔所在, 田中。〕

- (6) F.ヨーナス編『教育学者フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーとその友人たちとのあいだで取り交わされた学芸に関する書簡』(*Literalische Korrespondenz des Pädagogen Friedrich Eberhard von Rochow mit seinen Freunden. Neu herausgegeben und vermehrt von Fritz Jonas*)。ベルリン 1885年刊。総頁数 304頁。

内容 この書簡集は, すでにロヒョーが1799年に公刊した(97)『物故した教養人たちとのあいだに取り交わした書簡』第1巻にフリッツ・ヨーナスがテキスト・クリティークを施し, さらに未収録の書簡若干通を増補したものである。タイトルページにはロヒョーの肖像画が飾られている。V頁 前書への序文再録。VI-VII頁 本書への序文。VII頁 署名: 1884年8月, ベルリンにて, Dr. F. ヨーナス。VIII-XXVI頁 ロヒョーの伝記。XXVI-XXX頁 ロヒョーの印刷された著作の目録。1-125頁 書簡。259-274頁 付録。

- (7) 田中昭徳・金子茂訳『ロヒョー国民性と教育』(梅根悟・勝田守一監修 世界教育学選集34)。明治図書出版株式会社 1965年5月刊。

内容 11-160頁 訳文: 1. 民衆学校によって国民性を(17)。2. わたしの学校の歴史および付録A [1773年6月17日づけのツェードリッツの手紙], 付録B [学校劇],

付録C [1779年5月26日づけのツェードリッツの手紙] (66)。3. 救貧院を顧慮して都市下級学校および農村学校をもっと有効に組織すべき必要性について(71)。4. 全般的学校計画の試み(116)。5. 教育に関する若干の提案(8)。6. 農民の子どものための、あるいは村落学校で使用されるべき教科書試案(4) [ただし序文のみ]。7. 啓蒙を望み、かつこれを必要とする教師のための問答形式の手引書(8)。161-197頁：訳注。198-223頁：解説「ロヒョーの生涯と業績について」(田中昭徳)。

### ロヒョーに関する文献

- (1) 『一般ドイツ文庫』 (*Allgemeine deutsche Bibliothek*)。第19巻第1号。ベルリンおよびシュテッティン 1772年刊。69-78頁：『教科書試案』(4) 書評。
- (2) 同一誌名。第33巻第1号。62-63頁：『教科書試案』新訂・第2版 (4のb) および『子どもの友』(12) 書評。
- (3) 同一誌名。第39巻第2号。570-573頁：『民衆学校によって国民性を』(17) 書評。
- (4) 同一誌名。第42巻第1号。186-187頁：『子どもの友・第2部』(18) 書評。
- (5) 同一誌名。第67巻第2号。477-448頁：『健全なる理性の問答』(30) 書評。
- (6) 同一誌名。第90巻第号1号。220頁：『手引書』(26) 書評。
- (7) 同一誌名。第92巻第2号。235-55頁：『救貧院について試論』(36) 書評。



- (8) 同一誌名。第103巻第2号。507-510頁：『教科書試論』改訂第3版（4のb）書評。
- (9) 同一誌名。第103号第2号。510-513頁：『健全なる理性の問答』改訂・増補第2版（30のa）書評。
- (10) 『ゲッテンゲン教養報知』（*Göttingische Anzeigen von gelehrten Sachen*）。1773年 143面：『教科書試案』（4）書評。
- (11) 同一紙名。1776年。742-743面：『教科書試案』新訂・第2版（4のb）書評。
- (12) 同一紙名。1779年。679-680面：『子どもの友・第2部』（18）書評。
- (13) 同一紙名。1783年。1516面：フォン・デューリンクへの手紙。
- (14) 同一紙名。1784年647-648面：『手引書』（20）書評。
- (15) 同一紙名。1793年。715-718面：『是正——第1試論』（45）書評。
- (16) 『ドイツ学校および教育制度一般文庫』（*Allgemeine Bibliothek für das Schul- und Erziehungswesen in Deutschland*）。第1巻。ネルトリンゲン 1775年刊。144-152頁：『教科書試案』（4）書評。
- (17) 同一誌名。第5巻。1777年刊。170頁：『子どもの友』（12）書評。
- (18) 同一誌名。第5巻。1777年刊。444-457頁：『教科書試案』新訂・第2

版(4のb)書評。

(19) 「フォス新聞」(*Vossische Zeitung*)。ベルリン, 1774年2月10日号。18面:『教科書試案』(4)の紹介ならびに書評。

(20) A. F. ビュッシング著『レカーン紀行』(*Anton Friedrich Büsching, Beschreibung seiner Reise von Berlin über Potsdam nach Reckahn unweit Brandenburg, welche er vom dritten bis achten Juni 1775 getan hat. Mit Landkarten und andern Kupferstichen*)。ベルリン 1775年刊。総頁数332頁および索引。

ロヒョーおよびレカーンについては, とくに215-250, 287-297頁。

b. 同一書名。増補・第2版。フランクフルトおよびライプチヒ 1780年刊。序文, 本文401頁および索引。

ロヒョーおよびレカーンについては, とくに251-284, 318-326頁。

(21) 『1776年度ドイツ商業祭』(*Der teutsche Merkur vom Jahre 1776. Ihro Römisch-Kaisertlichen Majestät zueignet. Mit Königl. Preuß. und Kurfürste. Brandenburg. gnäd. Privilegio.*)。第2四半期号。299-300頁:『教科書試案』(4)について。

(22) G. F. ザイラー『宗教, 道德および人類の改善に関する新刊書についての公益的見地からの考察』(*Gemeinnützige Betrachtung der neuesten Schriften, welche Religion, Sitten und Besserung des Menschlichen Geschlechts betreffen. Herausgegeben von Georg Friedrich Seiler*)。第1輯。エルランゲン 1776年刊, 834頁:『子どもの友』(12)書評。

(23) 同一誌名。第2輯。1777年刊。85頁:マイニンゲン教師養成所につい

て。

- (24) 同一誌名。第4輯。1779年刊。560頁：『子どもの友・第2部』(18) 書評。
- (25) 同一誌名。第4輯。1779年刊。747頁：ロヒョーの功績。
- (26) 同一誌名。第5輯。1780年刊。974頁：ハルパーシュタット女学校。
- (27) 同一誌名。1792年付録。403-404頁：「学校教師がいつも快活または上  
きげんであることの大きな価値について」(46) 書評。
- (28) 同一誌名。第18輯。1793年刊。405-408頁：『是正——第1 試論』(45) 書  
評。
- (29) 同一誌名。第22輯。1797年刊。182-184頁：『わたしの学校の歴史』(60)  
書評。
- (30) 同一誌名。第23輯。1798年刊。321-325頁：『摘要』(73) 書評。
- (31) 同一誌名。第23輯。1798年刊。326-328頁：『摘要への補遺』(74) 書評。
- (32) 同一誌名。1798年付録。81-91頁：「大学教授ヤコープ氏著『経験心理  
学綱要』における理性と悟性について」(75) 書評。
- (33) 『汎愛主義文庫』(*Philanthropisches Archiv*)。第6号。デッソウ 1776  
年刊。4, 15, 17, 115, 120, 129, 130頁：汎愛派にたいするロヒョーの

関係。

- (34) 『ハンブルク国事・学芸新聞』 (*Staats=und gelehrte Zeitung des hamburgischen unparteiischen Korrespondenten*)。1776年12月7日号。ハンブルク。196面：『教科書試論』紹介。
- (35) J. Fr. フェデルゼン『高潔な人物の生涯に関する報告』 (*Nachrichten von dem Leben und Ende gutgesinnter Menschen von J. Friedrich Feddersen*)。ハルレ 1778年刊。266-272頁：ロヒョーの学校。
- (36) 同一誌名。1781年第1輯。シュパイエル 1781年刊。59-71頁：ロヒョーの学校。
- (37) 同一誌名。〔1781年〕第4輯。214-216頁：レカーンにおける寡婦と日傭労働者。
- (38) H. Chr. ボイエ編集『ドイツ学術雑誌』 (*Deutsches Museum. herausgegeben von H. Chr. Boie*)。第1巻。ライプチヒ 1778年刊。229-234頁：ロヒョーの教授法。
- (39) 同一誌名。第2巻。ライプチヒ 1779年刊。427頁：ロヒョーの努力。
- (40) [ウールリヒ著]『フリードリヒ大王の統治以後のプロイセン国家における宗教状態について』 ([Ulrich,] *Über den Religionszustand in den preußischen Staaten seit der Regierung Friedrichs des Großen. In einer Reihe von Briefen*)。第1巻。ライプチヒ 1778年刊。412-430頁：レカーンについて。

- (41) 同一書名。第2巻。30頁：ハルバーシュタット女学校。
- (42) 同一書名。第4巻。130頁：ロヒョーの影響。
- (43) 『教育学談話』 (*Pädagogische Unterhaltungen.*)。第3巻。デッソウ  
1779年刊：レーゼヴィッツならびにロヒョーに捧げる頌詩。
- (44) I. イーゼリン著『共和制商業都市における公教育の改善に関する一市民の試論』 (*Isaak Iselin, Versuch eines Bürgers über die Verbesserung der öffentlichen Erziehung in einer republikanischen Handelsstadt*)。バーゼル  
1779年刊。  
ロヒョーの『子どもの友』を推賞している。
- (45) A. F. ビュッシング『週間報告』 (*Anton Friedrich Büsching, Wöchentliche Nachrichten*)。第4年次分。ベルリン 1776年刊。156頁。『子どもの友』(12) 書評。
- (46) 同一書名。第7年次分。ベルリン 1779年刊。270-274頁：『民衆学校によって国民性を』(17) 書評。
- (47) 同一書名。第11年次分。ベルリン 1783年刊。365-366頁：『手引書』  
(26) 書評。
- (48) [I. イーゼリン編集]『人類暦表——別名, 倫理学, 政治学および立法文庫』 (*Ephemeriden der Menschheit oder Bibliothek der Sittenlehre, der Politik und der Gesetzgebung. [Herausgegeben von Isaak Iselin]*)。1780年1月号。バーゼル, マイハイムおよびライプチヒ。63-69頁：『子ども

の友』を推薦する。

- (49) 同一書名。1780年5月号。622-623頁：ロヒョーの学校。
- (50) 同一書名。1780年6月号。680-685頁：『子どもの友』書評。
- (51) 同一書名。1780年11月号。554-556頁：『子どもの友』について。
- (52) 同一書名。1780年11月号。568-578頁：『民衆学校によって国民性を』  
(17)書評。
- (53) 同一書名。1781年。352-363頁：ロヒョーの学校。
- (54) 「教育情報」 (*Die neuesten Erziehungsbegebenheiten mit praktischen Anmerkungen*)。第1輯。ギーゼン 1780年刊。176頁：ロヒョーはデッソウの汎愛学舎 (*Philanthropin zu Dessau*) で自分の方式を得た。
- (55) 同一書名。第2輯。ギーゼン 1781年刊。747-767頁：ロヒョーの活動。
- (56) 『両親と教育者のための児童文庫——別名、最近の児童用図書ニュース』。第1輯。フランクフルト 1780年刊。10頁：『子どもの友』を推薦している。
- (57) J. F. プレンニガー『農村学校文庫——別名、農村における学校教師の手引書』 (*Joh. Friedrich Prenniger, Landschulbibliothek, oder Handbuch der Schullehrer auf dem Lande*)。第2巻第2輯。ベルリン 1781年刊。

119-123頁：レカーンおよびゲッティン学校の設立。124-137頁：レカーン学校の *Schuldisziplin*\*。138-142頁：レカーン学校の学校組織。176-180頁：ハルバーシュタット教師養成所。

※ 原文未入手のため、「校規」の意か、あるいは「学校の訓育」の意かは不明。

58) 同一誌名。第3巻第1輯\*。ベルリン 1785年刊。93-117頁：「ハルバーシュタット大聖堂参事会付属教師養成所についての詳細な報告」。

※ 「全集」第3巻所収、「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの生涯、活動および事業に関する文献」524頁 No. 58に拠る。しかし、同じく『全集』第3巻所収の「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー著作目録」487頁 No. 32 bの“*Landschulbibliothek oder Handbuch der Lehrer auf dem Lande*. Joh. Fried. Prenniger, Berlin bei christion Friedrich Himburg 1785. 1 Stck. 4, Abt., S. 93/117”という記述とのあいだには齟齬がある。すなわち、『全集』第3巻, 524頁 No. 58の記述では、たんに1785, 3, 1, 83/117となっており、ただ発行年と頁数が前者と一致しているにすぎないからである。のみならず、書名さえも前者と相違している。すなわち、前者では“*Landschulbibliothek oder Handbuch der Lehrer auf dem Lande*”となっているにたいし、後者では、“*Landschulbibliothek oder Handbuch der Schullehrer auf dem Lande*”（『全集』第3巻, 524頁, No. 57 参照）となっている。

59) K. F. リーマン著『レカーン学校制度の試論的記述』（Karl Friedrich Riemann, *Versuch einer Beschreibung der Reckahnschen Schuleinrichtung. Mit einem Vorwort E. von Rochows.*）。ベルリンおよびシュテッティン 1781年刊。

b. 同一書名。第3版。付・レカーン学校25年史。ベルリンおよびシュテッティン 1792年刊。

60) K. F. リーマン著『レカーン学校の新記述』（Karl Friedrich Riemann, *Neue Beschreibung der Reckahnschen Schulen, größtenteils zugleich*

*ein Praktischen Handbuch für Lehrer, welche nach Reckahnsche Lehrart unterrichten können und wollen. Mit einer Vorrede von Sr. Hochwürden dem Herrn Domherrn u. a: Friedrich Eberhard von Rochow, Erbherrn anf Reckahn a. a.)*。ベルリンおよびシュテットイン 1792年。

b. 同一書名。第3版。1798年刊。

c. 同一書名。第4版。1809年刊。

61) 『説教師のためのジャーナル』(*Journal für Prediger*)。第12巻第1号。ハルレ 1781年刊。35-42頁：「大聖堂参事会員フォン・ロヒョー氏へ」。1781年5月6日, M.。(レカーンにおける1つの試みについて)。

62) 同一誌名。第18巻第33巻<sup>\*</sup>。ハルレ 1786年刊。290-304頁：レカーンの学校について。(ハルパーシュタット大聖堂説教師シュトライトホルスト執筆。)

※ E. シェファー著「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。その生涯と活動」(*Ernst Schäfer, Friedrich Eberhard von Rochow. Ein Bild seines Lebens und Wirkens*)。ギュタースロー 1906年刊, 所収の「ロヒョーの伝記に関する文献」(98頁)に拠る。なお, 『全集』第3巻所収の「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの生涯, 活動および事業に関する文献」524頁 No. 63では, 第18巻第18号となっている。

63) 同一誌名。第20巻第1号。ハルレ 1788年刊。1-47頁：「レカーンおよび大聖堂参事会員フォン・ロヒョー氏の学校についてさらに一言する」。(ハインリヒ・ゴットリーブ・ツェレンナー執筆)。

64) 『とくにプロイセン諸州における教育と学校のためのマガジン』



(*Magazin für die Erziehung und Schulen, besonders in der preußischen Landen*)。第1巻第2号。ハルレ 1781年刊。30頁以下:ノイルッピンのラテン語学校教師はロヒョーの教授法を研究している。109頁:『教科書試案』と『子どもの友』はラテン語学校の下級3クラスの授業にも使用されている。134-146頁:リーマンによるレカーン学校についての記述。

65) 同一誌名。第1巻第4号。156頁:ロヒョーの臨席のもとに, 1778年6月10日, ハルバーシュタット教師養成所の開所式が行なわれた。

66) K. ボルヘック著『公教育制度に関する文通の試み』(Konrad Borheck, *Versuch eines Briefwechsels über das Öffentliche Schul- und Erziehungs=Wesen.*)。ハルレ 1785年刊。

ロヒョー式授教法の実際についての記述が含まれている。

67) 『ライプチヒ週間新聞』(*Gnädigst privilegiertes Leibziger Intelligenz=Blatt in Frag und Anzeigen für Stadt=und Landwirthe zum Besten des Nahrungsstandes*)。第24号(1786年1月3日土曜日づけ)。201頁:ロヒョーの学校についての「問い合わせ」。第27号(1786年1月23日金曜日づけ) 223-227頁:それにたいする回答。

68) 『啓蒙の世紀18世紀の描写』(*Gemälde ans dem aufgeklärten achtzehnten Jahrhundert*)。ベルリンおよびライプチヒ 1786年刊。第1巻, 176-186頁および第2巻, 179-186頁:ロヒョーの学校。

69) F. ゲティーク, J.G. ビースター編集『ベルリン月刊雑誌』(*Berlinische Monatsschrift. Herausgegeben von F. Gedike und J. Biester*)。第10巻

(1787年7-12月号)。ベルリン 1787年刊。97-116頁：K. A. フォン・ツェードリッツ「王国の学校制度の改善に関する提案」(Karl Abraham von Zedliz, *Vorschläge zur Verbesserung des Schulwesens in den Königlichen Landen*)。325-341頁：J. シェトゥッフエ「ロヒョーのレカーン学校について」(Johann Stuve, *Ueber die Rochowsche Schule. zu Reckahn*)。

- (70) F. ゲティーク著『教科書ならびに児童用図書についての若干の見解』(Friedrich Gedicke, *Einige Gedanken über Schulbücher und Kinderschriften*)。ベルリン 1787年刊。

青少年教育にたいするロヒョーの功績が述べられている。

- (71) J. G. ベッティハー著『農村学校教師の養成にたいする貢献』(J. G. Betticher, *Ein Beitrag zur Bildung der Schullehrer auf dem Lande*)。ケーニヒスベルク 1788年刊。

26頁：『子どもの友』が推薦されている。

- (72) ミラボー『フレデリック大王治下のプロシヤ王国』(Honoré Gabriel Victor Riqueti Comte de Mirabeau, *De la Marche prussienne, sur la situation actuelle des principales Contrées de l'Allemagne*. Londres. 8. Tome)。

第1巻, 237頁および第5巻135頁にロヒョーの民衆教育にたいする努力を賞讃している。

[所在, 東北大学付属図書館。]

- (73) J. F. プレンニガー『農村学校文庫——別名, 農村における学校教師の手引書』。第4巻。ベルリン 1788年。

70-107頁：『問答形式の手引書』(26) についての所見。

- (74) 『ドイツ新聞』 (*Deutsche Zeitung*)。ゴータ 1789年刊。317頁：ロヒョーの善行。
- (75) 『国法の学習について』 (*Über die Erlernung der Landesgesetze*)。ライプチヒ 1789年刊。  
15および33頁：ロヒョーの努力。
- (76) 『ドイツの教育著述家の特性叙述。教育者のための手引書』 (*Charakteristik der Erziehungsschriftsteller Deutschlands. Ein Handbuch für Erzieher*)。ライプチヒ 1790年刊。  
365-368頁：教育著述家としてのロヒョーの功績。
- (77) H. G. ツェレンナー編集『ドイツ学校の友——市民学校および農村学校教師のための手引書を兼ねた有益な読み物』 (*Der deutsche Schulfreund. Ein nützliches Hand- und Lesebuch für Lehrer in Bürger- und Landschulen, herausgegeben von H. G. Zerrenner*)。第1巻。エールフルト 1791年刊。111-113頁：フォン・ロヒョー氏著『健全なる理性の問答』(80) についての用語解説。
- (78) 同一誌名。第2巻。エールフルト 1791年刊。84-92頁：同じく用語解説。
- (79) 同一誌名。第11巻。エールフルト 1795年刊。109-118頁：ブルンスの生涯。
- (80) 同一誌名。第16巻。エールフルト 1797年刊。138頁：『摘要』(74) について。

- (81) 同一誌名。第22巻。エールフルト 1800年刊。77-103, 113-116, 120-125頁：ロヒョーの功績。
- (82) 同一誌名。第24巻。エールフルト 1801年刊。44-70頁：ロヒョーの著作。
- (83) J. ビューエル著『農村学校教師のための注意』(Johannes Büel, *Bemerkungen für Landschullehrer*)。チューリヒ 1791年刊。  
『子どもの友』を推薦している。
- (84) 『ベルリンの学者、著述家および芸術家の半身像への補遺』(*Nachtrag zu den Büsten Berlinischer Gelehrten, Schriftsteller und Künstler*)。ハルレ 1792年刊。  
181頁：フォン・ロヒョー。
- (85) 『新一般ドイツ文庫』(*Neue allgemeine deutsche Bibliothek*)。第1巻第2号。370-377頁：翻訳『ミラボー兄 国民教育に関する談話』(44)書評。
- (86) 同一誌名。第6巻第1号。156-158頁：『是正——第1試論』(45)書評。
- (87) 同一誌名。第21巻第2号。1796年刊。475-477頁：『是正——第2試論』(59)書評。
- (88) 同一誌名。第38巻第2号。1798年刊。314-315頁：『摘要』(73)および『摘要への補遺』(74)書評。
- (89) 同一誌名。付録1。538-543頁：『わたしの学校の歴史』(66)書評。

- 90 同一誌名。第44巻第1号。1799年刊。237頁：『市民学校および産業学校における初歩教授のための教材』(85) 書評。
- 91 同一誌名。第58巻 (広告新聞)。1801年刊。52頁：ロヒョーはメックレンブルク州協会会員に指名された。
- 92 同一誌名。第59巻第1号。1801年刊。165-168頁：『物故した教養人たちとのあいだに取り交わした学芸に関する書簡』(97) 書評。
- 93 同一誌名。第65巻第1号。1801年刊。337頁：マルク経済協会におけるロヒョーの活動。
- 94 同一誌名。第70巻 (広告新聞)。1802年刊。201頁：同上。
- 95 同一誌名。第74巻第1号。1802年刊。198-200頁：同上。
- 96 同一誌名。第90巻。1804年刊。496頁以下：ロヒョーの諸努力。
- 97 同一誌名。第98巻。1805年刊。371頁：ロヒョー死亡広告と哀悼の辞。
- 98 J. G. クリュニーツ著『経済学・技術学百科事典』(J. G. Krünitz, *Oekonomisch=technologische Encyclopädie, oder allgemeines System der Staats=, Stadt=, Haus=und Landwirtschaft, und der Kunstgeschichte, in Alphabetischer Ordnung. 61 ter Teil.*)。ベルリン 1793年刊。  
625-1028頁：農村学校。
- b. この「農村学校」の項は翌94年, 別刷印刷され, J. G. クリュニーツ

ツ著『農村学校』(J. G. Krünitz, *Landschulen*)として、ベルリンで刊行された。

99 F. W. ヴォルフラート著『フォン・ロヒョー氏著《是正——第1試論》に関するあらゆる階級の神学者、道德家および思想家のための辞典』(F. W. Wolfrath, *Wörterbuch für Theologen, Moralisten und Denker aller Klassen in Beziehung auf des Herrn von Rochows Berichtigungen. Erst Probe*)。シュレースヴィヒおよびベルリン 1794年刊。

[未完]